

小学校学習指導要領解説 学習評価Q&A 生活科



教
学
一
如
女

教えることは 学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説学習評価Q & Aについて

平成29年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や小・中学校の教科等別に評価規準の作成のポイントを先生方に分かりやすく解説するためQ & A形式でまとめています。

この学習評価Q & Aは、改訂された学習指導要領に基づき、どんなところが変わったのかをまとめています。



1 大事なポイントを解説

学習指導要領解説を踏まえ、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

2 Q & A

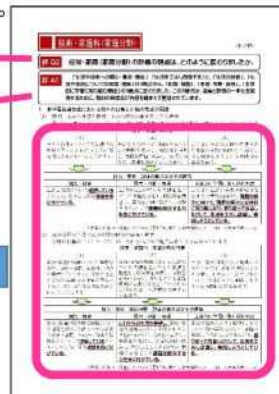
教科の目標や学年の目標に照らし合わせて評価規準の作成の手順等を図式化し、留意点などワンポイントアドバイスを取り入れるなど、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

評Q2 技術・家庭(家庭分野)の評価の観点は、どのように変わりましたか。

評A2 「生活や技術への関心・意欲・態度」「生活を支えし創造する力」「生活の技能」「生活や技術についての知識・理解」の4観点から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を変わりました。この3観点は、指導と評価の一体化を実現するために、教科の目標及び内容を踏まえて整理されています。

新学習指導要領における教科等の目標と評価の観点の関連等についてQ & A形式で分かりやすく解説しています。

コンパクトに「答え(Answer)」に係る補足説明や参考資料などがまとめてあるので、「答え」の理由や根拠などが分かります。



3 簡単アプローチ

「指導と評価の一体化」を図り、児童生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に生かしてください。各教科ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

目次

評Q1	学習評価の基本的な考え方とはどのようなものですか。……………	1
評Q2	生活科の評価の観点は、どのように変わりましたか。……………	4
評Q3	生活科の評価規準は、どのように作成すればよいですか。……………	6
評Q4	評価をする際、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。…	11

生活科（共通）

評 Q1 学習評価の基本的な考え方とはどのようなものですか。

評 A1 学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科の評価の観点が、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3観点到に整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が児童生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。

1 学習評価の意義

(1) 学習評価の充実

平成 29 年改訂小中学校学習指導要領総則においては、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と学習の過程や成果を評価する評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示されました。

(2) カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

「学習評価」は「学習指導」とともに、学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

(4) 学習評価の改善の基本的な方向性

(1)～(3)の学習評価の意義を踏まえ、学習指導要領改訂の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要です。学習評価を真に意味のあるものとするために指導と評価の一体化を実現することがますます求められています。

【ポイント】

- 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



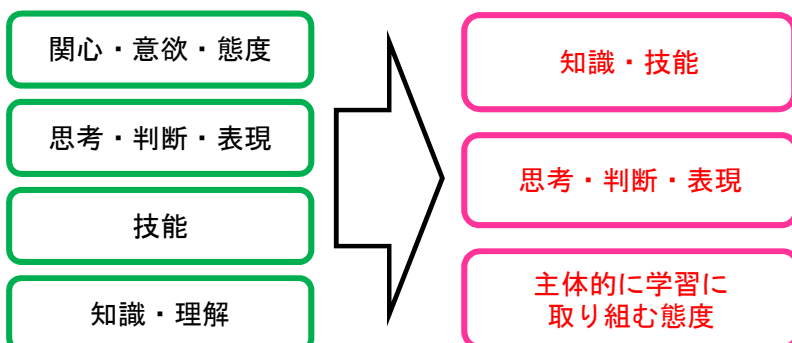
「指導と評価の一体化」を図るためには、児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというPDCAサイクルが大切です。

2 評価の観点の整理

育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえ、観点別学習状況の評価の観点については、小・中学校の各教科等を通じて「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到に整理されました。

[平成 20 年改訂]

[平成 29 年改訂]

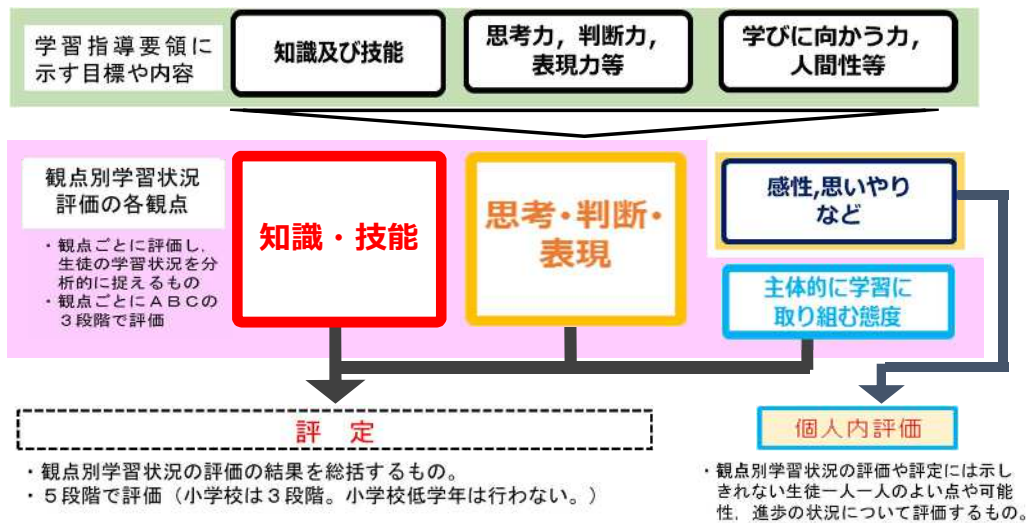


【参考】

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。(学校教育法第 30 条第 2 項)

3 各教科における評価の基本構造

2で示した評価の観点の整理も踏まえて各教科における評価の基本構造が以下のように示されています。



(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料) p. 8 を基に作成, 以下「学習評価参考資料」と記す。)

4 各教科における観点別学習状況の評価の考え方



上記の「各教科における評価の基本構造」を踏まえた3観点の評価それぞれについての考え方は次のとおりです。なお、この考え方は、外国語活動(小学校)、総合的な学習(探究)の時間、特別活動においても同様です。

「知識・技能」

各教科等の学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価します。それらを既有的な知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

「思考・判断・表現」

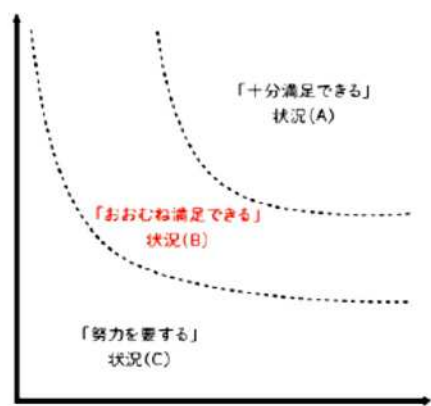
各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と、「②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面から評価することが求められます。

これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられます。例えば、自らの学習を全く調整しようとし粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではありません。

②自らの学習を調整しようとする側面



①粘り強い取組を行おうとする側面

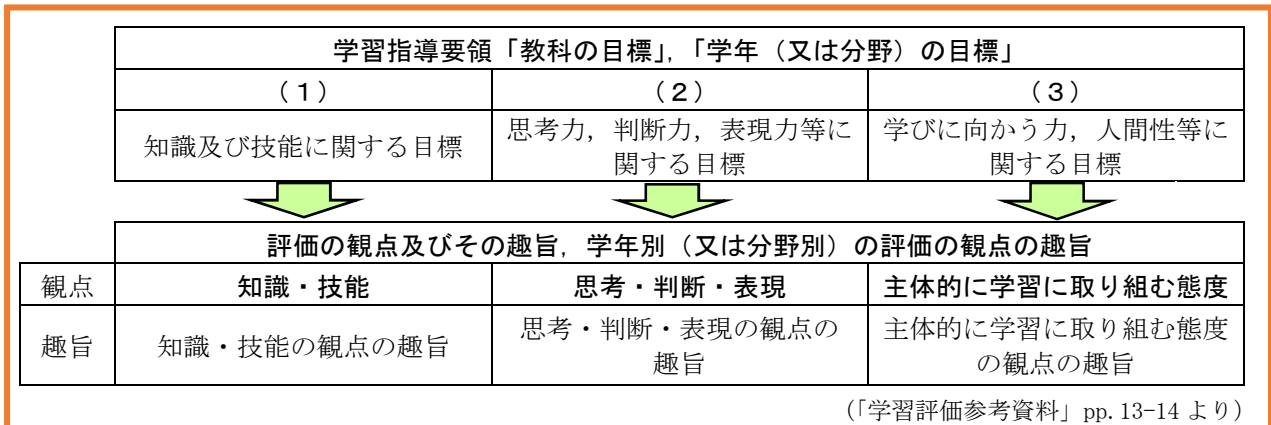
(「学習評価参考資料」 p. 10 を基に作成)

5 各教科における評価規準の作成について

(1) 目標と観点の趣旨との対応関係について

評価規準の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、「評価の観点及びその趣旨」が各教科等の目標を踏まえて作成されていること、また同様に、「学年別（又は分野別）の評価の観点の趣旨」が学年（又は分野）の目標を踏まえて作成されていることを確認する必要があります。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科等及び学年（又は分野）の目標の（3）に対応するものですが、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分をその内容として整理し、示していることを確認することが必要です。（詳細は、評Q2参照）



指導と評価の計画を作成し、評価規準に基づいた「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の観点別評価を実施することで、児童生徒の姿が、教科の目標や学年の目標に近付いていくことになります。

(2) 「内容のまとめりごとの評価規準」とは



「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたものです。基本的には、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年（又は分野）の目標及び内容」の「2 内容」において、「内容のまとめり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となり得るものとなっています。（詳細は、評Q2参照）

(3) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

各教科における、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順は以下のとおりです。

学習指導要領に示された教科及び学年（又は分野）の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、

- ① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

評 Q2 生活科の評価の観点は、どのように変わりましたか。

評 A2 今回の改訂においては、指導と評価の一体化を実現するため、全ての教科において、教科の目標に示された資質・能力の三つの柱を踏まえ、評価の観点も3観点になったことが大きな変更点の一つです。

生活科は、従来から3観点でしたが、「生活への関心・意欲・態度」、「活動や体験についての思考・判断」、「身近な環境や自分についての気付き」から「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」に変わりました。

1 新学習指導要領における教科の目標と評価の観点の関連

教科の目標の(1)～(3)と、それぞれ評価の観点及びその趣旨が合うようになっています。

生活科の目標		
(1)	(2)	(3)
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 (知識及び技能の基礎)	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 (思考力・判断力・表現力等の基礎)	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)
↓ ↓ ↓		
評価の観点及びその趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に <u>気付いている</u> とともに、生活上必要な習慣や技能を <u>身に付けている</u> 。 ※従来の「身近な環境や自分についての気付き」に近い	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、 <u>表現している</u> 。 ※従来の「活動や体験についての思考・判断」に近い	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたり <u>しようとしている</u> 。 ※従来の「生活への関心・意欲・態度」に近い

(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料) を基に筆者作成)

2 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係

(1) 「内容のまとめり」とは

生活科における「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示された9つの内容の一つ一つと考えることができる。

	「内容のまとめり」
学校、家庭及び地域の生活に関する内容	内容(1) 学校と生活
	内容(2) 家庭と生活
	内容(3) 地域と生活
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	内容(4) 公共物や公共施設の利用
	内容(5) 季節の変化と生活
	内容(6) 自然や物を使った遊び
	内容(7) 動植物の飼育・栽培
	内容(8) 生活や出来事の伝え合い
自分自身の生活や成長に関する内容	内容(9) 自分の成長

(2) 「内容のまとめり」と「評価の観点」の例

【例 内容(1)「学校と生活」と「評価の観点」の関係】

内容(1)

学校生活に関わる活動を通して、①学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、②学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、③楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。 (小学習指導要領 (平成 29 年告示) 第 2 章 第 5 節 生活 第 2 の 2 内容から抜粋 下線及び太字は筆者による。)

生活科における「内容」の記述には、児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等に続けて、以下の三つが構造的に組み込まれています。

- ① 下線は、**思考力、判断力、表現力等の基礎**に関すること
- ② 下線は、**知識及び技能の基礎**に関すること
- ③ 下線は、**学びに向かう力、人間性等**に関すること



これらを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成することになります。

内容と「内容のまとめりごとの評価規準」、作成する際の観点ごとのポイントは、以下の表のとおりです。

学習指導要領 2 内容(1)	知識及び技能の基礎 学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが <u>分</u> かる。	思考力・判断力・表現力等の基礎 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて <u>考えることができる</u> 。	学びに向かう力、人間性等 学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたり <u>しようとする</u> 。
内容のまとめりごとの評価規準 例	知識・技能 学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが <u>分か</u> っている。	思考・判断・表現 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて <u>考えている</u> 。	主体的に学習に取り組む態度 学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたり <u>しようとしている</u> 。
作成する際の観点ごとの評価規準を	内容の文末を、 「分かる」から 「分かっている」、 「気付く」から 「気付いている」、 などのようにする。	内容の文末を、 「考えることができる」から 「考えている」、 「見付ける」から 「見付けている」、 「工夫してつくることができる」から 「工夫してつくっている」 などのようにする。	内容の文末を、 「しようとする」から 「しようとしている」、 「創り出している」から 「創り出そうとしている」、 「楽しくしようとする」から 「楽しくしようとしている」 などのようにする。

(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料) 基に筆者作成)

評 Q3 生活科の評価規準はどのように作成すればよいですか。

評 A3 まず、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえ、「単元の目標」及び「単元の評価規準」を各学校において作成します。さらに、「単元の評価規準」を学習活動に即して具体化し、小単元の評価規準を作成します。

1 授業で評価する評価規準を作成するまでの流れ

- 1 「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。(評Q2)
- 2 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。(評Q2)
- 3 単元の評価規準を作成する。
 - (1) 単元を検討する。
 - (2) 単元の目標を作成する。
 - ① 単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。
 - ② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。
 - (3) 単元の評価規準を作成する。
 - (4) 小単元の評価規準を作成する。
 - ① 学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力に関する記述を確認する。
 - ② 「具体的な内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考に、学習活動に即した小単元の評価規準を作成する。
 - ③ 単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行い、指導と評価の計画を立てる。

2 単元の評価規準を作成するに当たって

(1) 単元の見直し

以下に示す「生活科の単元の特徴」を大切に、それぞれの学校で単元の内容を組み合わせたり、単元を構想したり、体験と表現が繰り返される学習過程を設定したりして、単元計画を作成します。(詳しくは、「小学校学習指導要領解説Q&A生活科のQ17(pp. 27-28)」を参照)



生活科では、複数の内容を組み合わせると一つの単元を構成することが多いのはどうしてですか。

それは、児童が身近な人々、社会や自然が一体的に構成された環境の中で生活しているからであり、また、低学年の児童は、身近にある自然や社会を一体的に認識する発達段階にあって、限られた学習対象を取り出して学習を進めていくことが難しいからです。

例えば、学校の周辺に図書館や博物館等の公共施設がある場合、内容(3)「地域と生活」の単元では、学校の周辺を探検する中で、それらの公共施設を見付け、公共施設の利用に関する活動に必然的に発展していくことは児童の意識の流れにも沿っていますね。このような場合、内容(4)「公共物や公共施設の利用」と関連付けて単元を構成することが考えられます。

こうすることで、一人一人の学習活動に関連性や連続性、発展性が生まれ、児童の思いや願いが一層高まり、思考が深められ、気付きの質が高まるとともに、学びに向かう力等も育まれていくことが期待できますね。



(2) 単元の目標の作成

単元を構成する内容について、学習指導要領及び学習指導要領解説生活編における各内容の記載事項を踏まえるとともに、**具体的な学習対象に即して**単元の目標を作成します。

ア 単元を1内容で構成した場合の作成例 (第2学年 内容(7)「動植物の飼育・栽培」)

単元の目標 例1	内容(7)	単元の目標 例2
モルモトを飼育する活動を通して、	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、	野菜などの植物を継続的に栽培する活動を通して、
モルモトの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、	それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、	これまでの経験を基に予測しながら、野菜の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、
モルモトに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、	それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、	それらの植物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、
モルモトへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。	生き物への親しみをもち、大切にしようとする。	生き物への親しみをもち、大切にしようすることができるようにする。

単元の目標の作成に当たっては、例のように、育成する資質・能力を総括的に一文で示すなどの工夫をしましょう。なぜなら、生活科においては教科目標に示した資質・能力の末尾が「の基礎」となっているように、幼児期までの学びの特性を踏まえ、育成を目指す三つの資質・能力を截然と分けることができないからです。これは、学年の目標や各内容において、資質・能力が一文の形で構造的に示されているのと同じです。

(詳しくは、「小学校学習指導要領解説Q & A生活科のQ 2 (pp. 3-4)及びQ 3 (pp. 5-6)」を参照)



イ 単元を2内容で構成した場合の作成例 (第1学年 内容(5)「季節の変化と生活」、内容(6)「自然や物を使った遊び」)

内容(5)	単元の目標 例	内容(6)
身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、	秋の自然を見付けたり遊んだりする 活動を通して、	身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、
それらの違いや特徴を見付けることができ、	秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、	遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、
自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに関心するとともに、	秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに 気付くとともに、	その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、
それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。	季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。	みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

複数の内容を組み合わせて単元を構成する場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることがないように気を付けましょう。



(3) 単元の評価規準の作成

単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成します。

第2学年 内容(7)「動植物の飼育・栽培」に基づく作成例

単元の目標	モルモットを飼育する活動を通して、 モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ (思考力, 判断力, 表現力等の基礎), モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付く (知識及び技能の基礎)とともに、 モルモットへの親しみをもち、生き物を大切に にする(学びに向かう力, 人間性)ことができるようにする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付いている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。

(4) 小単元の評価規準の作成

生活科は、児童が具体的な活動や体験を通して、あるいはその前後を含む学習の過程において、文脈に即して学んでいくことから、**評価は、活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視**して行われます。そのためにも、一連の具体的な学習活動のまとまりである小単元における評価規準を、具体的な児童の姿として作成することが大切です。手順は以下のとおりです。

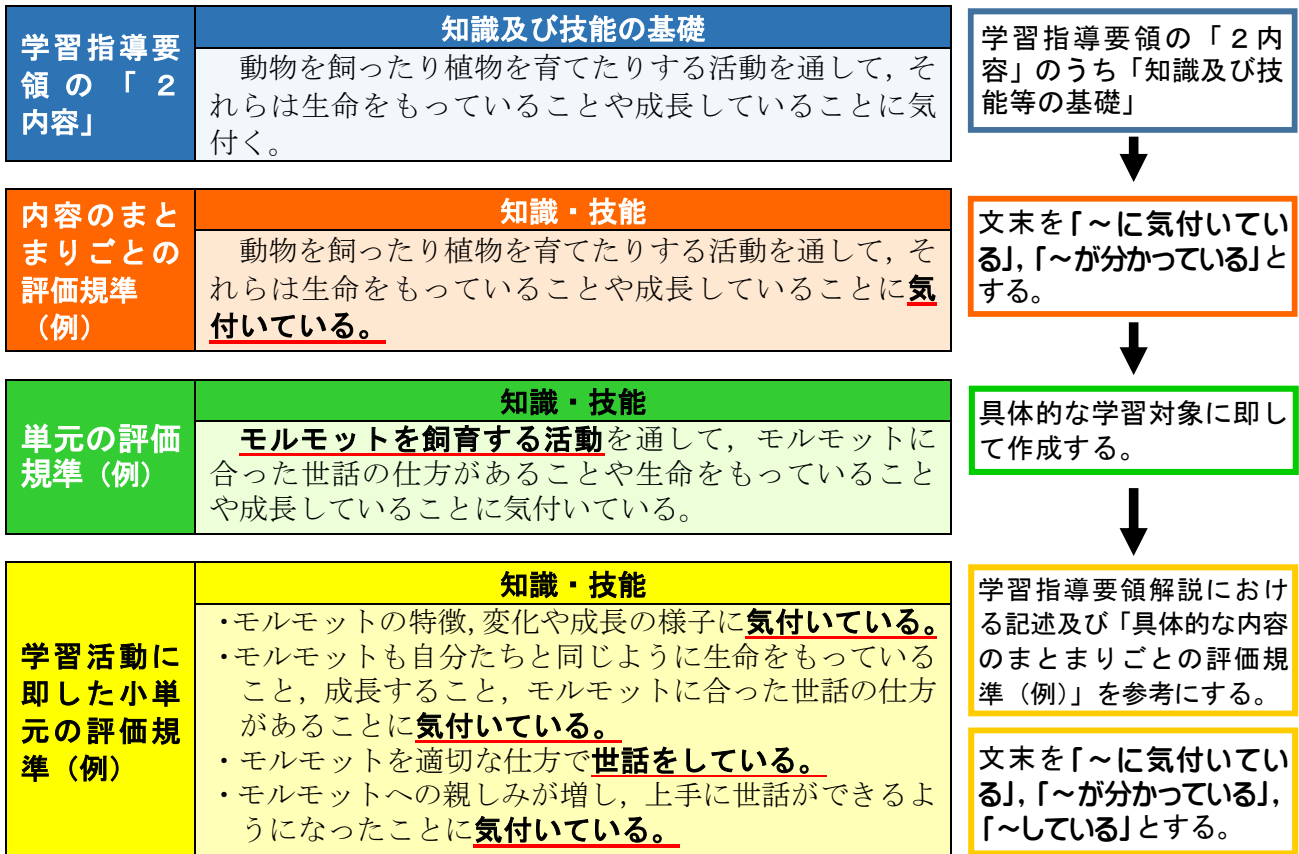
(小単元の評価規準を作成する手順)

- ① **学習指導要領解説**において、**各内容※1に示された資質・能力に関する記述**を確認する。
(※1 複数の内容を組み合わせて単元を構成した場合は、関係する全ての内容)
- ② 「**具体的な内容のまとまりごとの評価規準(例)※2**」を参考に、学習活動に即した小単元の評価規準を作成する。(※2 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』の巻末資料 pp. 74-82 参照)
- ③ 単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行い、指導と評価の計画を立てる。

評価規準の作成例 : 第2学年 内容(7)「動植物の飼育・栽培」

○ 知識・技能の評価規準作成

〈作成のポイント〉



○ 思考・判断・表現の評価規準作成

学習指導要領の「2内容」	思考力, 判断力, 表現力等の基礎
	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して, それらの育つ場所, 変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。
内容のまとめりごとの評価規準(例)	思考・判断・表現
	動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して, それらの育つ場所, 変化や成長の様子に関心をもって <u>働きかけている。</u>
単元の評価規準(例)	思考・判断・表現
	<u>モルモットを飼育する活動</u> を通して, モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。
学習活動に即した小単元の評価規準(例)	思考・判断・表現
	<ul style="list-style-type: none"> ・モルモットの変化や成長の様子に着目したり, モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら, 世話をしている。 ・モルモットとの関わりを振り返りながら, 世話をしていたことやモルモットへの思い, 自分自身の成長を表現している。

〈作成のポイント〉

学習指導要領の「2内容」のうち「思考力, 判断力, 表現力等の基礎」



文末を「～している」とする。



具体的な学習対象に即して作成する。

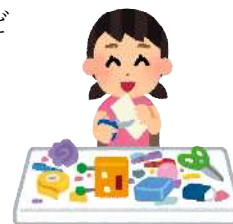


学習指導要領解説における記述及び「具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)」を参考にする。

※文の構造を「○○して(しながら), △△している」とする。○○には, 具体的な学習活動において期待する思考を, △△には具体的な児童の姿を記述する。
※ 左下表も参照のこと。

「思考・判断・表現」に関する評価規準(例)

斉整	○○して(しながら) 〔具体的な学習活動において期待する思考〕	△△している 〔具体的な児童の姿〕
具体例	① 見付けて(見付けながら) ・思い起こして, 感じて, 気にしながら, 意識しながら など	・観察している ・関わっている
	② 比べて(比べながら) ・特徴でまとめながら, 違いで分けて, 順序を考えながら など	・記録している ・方法を決めている
	③ たとえて(たとえながら) ・知っていることで表しながら, 関連付けながら, 置き換えて, 見立てて など	・表している ・集めている ・楽しんでいる
	④ 試して(試しながら) ・実際に確かめながら, 調べたりやってみたりして, 練習しながら など	・遊んでいる ・交流している
	⑤ 見通して(見通しながら) ・思い描きながら, 予想しながら, 振り返って など	・捉えている ・知らせている
	⑥ 工夫している(工夫しながら) ・生かしながら, 見直して など	・利用している ・伝え合っている ・計画を立てている など



(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料) p. 41 を基に筆者作成)

○ 主体的に学習に取り組む態度の評価規準作成

学習指導要領の「2 内容」	学びに向かう力、人間性等 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。
内容のまとまりごとの評価規準(例)	主体的に学習に取り組む態度 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。
単元の評価規準(例)	主体的に学習に取り組む態度 <u>モルモットを飼育する活動</u> を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。
学習活動に即した小単元の評価規準(例)	主体的に学習に取り組む態度 ・ <u>元気に育てたい、仲良くなりたいという思いや願い</u> をもって、モルモットに関わろうとしている。(①) ・ <u>モルモットに心を寄せ、モルモットの様子に合わせて</u> 、繰り返し関わろうとしている。(②) ・ <u>モルモットとの関わりが増したことに自信</u> をもち、関わり続けようとしている。(③)

〈作成のポイント〉

学習指導要領の「2 内容」のうち「学びに向かう力、人間性等」



文末を「～しようとしている」とする。



具体的な学習対象に即して作成する。



学習指導要領解説における記述及び「具体的な内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考にする。

文の構造を「○○し、△△しようとしている」とする。○○には①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信に関して具体的に表したものを、△△には具体的な児童の姿を記述する。

「①粘り強さ」、「②学習の調整」、「③実感や自信」とは、具体的には次のとおりです。

- ① 「粘り強さ」…思いや願いの実現に向かおうとしていること
- ② 「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること
- ③ 「実感や自信」…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとするを繰り返し、安定的に行おうとしていること

これは、生活科における「学びに向かう力、人間性等」の目標に基づくものです。



指導と評価の一体化に向けて(指導と評価の計画)

生活科は、子供の思いや願いに基づいて、個別に行われる具体的な活動や体験を通して学ぶことを基本とする教科である。そのため、個別の活動を評価していくことが求められる。さらに、評価の対象が「気付き」や「思考」、「意思」といった目に見えにくいものであり、子供一人一人の行動、発言、記述、作品等を注意深く観察し、読み取ることが求められる。単元の計画においては、評価の場面や方法を含めた指導と評価の計画を立てるとともに、児童の言動に表出した思いや願いを共感的に捉え、児童がそれぞれのよさを発揮できるような環境構成、言葉掛けの工夫など、児童の指導と評価の一体化を図る必要がある。事例を参考に、各学校で指導と評価の一体化に向けて取り組んでほしい。

【事例】

学習評価に関する事例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
第3編 第2章 学習評価に関する事例について(pp.42-70)
【国立教育政策研究所教育課程研究センター】



生活科（共通）

評Q4 評価をする際、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評A4 学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、指導と評価の計画を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

また、観点別学習状況評価を総括する際や、総括した評価を評定に総括する際には、校内で十分に共通理解を図り、児童生徒や保護者にも説明できるようにする必要があります。

1 学習評価の進め方について

(1) 学習評価について指摘されてきた課題

学習評価については、以下のような課題が指摘されてきました。



- ・ 評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・ 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるとの誤解がある。
- ・ 評価の方針が教師によって異なり、学習改善につなげにくい。
- ・ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。

教師は、上記のような課題に応えるためにも、児童生徒への学習状況のフィードバックや授業改善に生かすという評価の機能を一層充実させる必要があります。そのためにも、学習評価の進め方に留意し、評価の充実を図ることが必要です。

(2) 評価の進め方及び留意点

単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方及び留意点は、以下のとおりです。

ア 単元（題材）の目標を作成する。 →評Q3に関連

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

イ 単元（題材）の評価規準を作成する。 →評Q3に関連

- ※ 単元（題材）の目標及び評価規準の関係性については評Q1参照。

ウ 「指導と評価の計画」を作成する。

- ア、イを踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（児童生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

エ 授業を行い、観点別学習状況の評価を行う。

「指導と評価の計画」に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

オ 観点ごとに総括する。

集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

2 「指導と評価の計画」の作成例

これまでの指導計画に、観点別学習状況評価を位置付けた「指導と評価の計画」を作成することで、単元（題材）を見通した計画的な指導と評価を行うことができ、その充実にもつなげることができます。「指導と評価の計画」は、教科等の特性を踏まえ、様々な様式で作成することができます。

【パターン1】（中学校数学科 単元名「一次関数（全17時間）」）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	・具体的な事象を捉え考察することを通して、問題の解決に必要な二つの変数を取り出し、それらの関係を表や座標平面上に表すことができるようにするとともに、一次関数の定義を理解できるようにする。	知	知①	知①：行動観察
2	・いろいろな事象で二つの変数の関係を $y=ax+b$ で表すことを通して、事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解できるようにする。 ・小単元1の学習を振り返って、「学びの足跡」シートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	知 態	知② 態①③	知②：小テスト ※小テストの結果は指導等に生かす。 態①③：「学びの足跡」シート ※小単元2以降の指導等に生かす。

【「知識・技能」の評価の方法】
児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなどの実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが大切です。
例えばペーパーテストにおいて知識の習得を問う問題と、知識の理解を問う問題とのバランスの配慮をする、求められる知識・技能を可視化するような学習カードを作成するなどの工夫改善が考えられます。

【パターン2】（中学校技術・家庭科 題材名「家族・家庭や地域との関わり（全6時間）」）

小題 材	時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家族や地域の人々との関わり	1	○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて問題を見だし、課題を設定することができる。 ・自分と家族や地域の人々との関わりを図等に表す。 ・自治会長など地域の人による講話等を通して、家庭生活と地域との関わりについて話し合う。 ・家族や地域の人々との関わりについて問題点を挙げ、課題を設定する。 (問題点の例) ・家族は防災グッズを用意しているが、実際に何が準備されているのかがよく分かっていない。 ・地域は防災訓練を実施し、災害に備えているが、参加していない。高齢者など地域の人々に任せきりになっている。	①家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて ・学習カード	①家族や地域の人々との関わりについて問題を見だし、課題を設定している。 指導に生かす評価 ・学習カード	
		家族や地域の人々と、どのように関わるとよいのだろうか			

【「思考・判断・表現」の評価の方法】
児童生徒の発言内容から、問題を見だし、課題を設定できているかを見取る必要があります。
その際には、例えばペーパーテストのみならず、学習カードやワークシートを活用した論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたら、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

【パターン3】（中学校国語科 単元名「枕草子（全3時間）」）

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○『枕草子』について、小学校での学習を想起するとともに、映像資料を視聴するなどして概要を理解する。 ○ 第一段を読み、清少納言のものの見方や考え方を知る。	[知識・技能] ①	ノート
2	○ 「うつくしきもの」を読み、清少納言のものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方と比べる。	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	ノート 振り返りシート

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法】
具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。
その際、各教科等の特質に応じて児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、その他の観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」）の状況や、前時までの学習を踏まえた上で評価を行う必要があります。



上記のパターンのように、指導と評価の計画は各教科によって、様々な作成の方法がありますので、各学校の実情や児童生徒の状況に応じて作成し、評価の充実を図ってください。

（学習評価参考資料中学校数学 p. 42, 中学校技術・家庭科 p. 107, 中学校国語 p. 66 から一部抜粋）

3 観点別学習状況の総括について

評価に係る記録の総括と評定への総括については、次のことに留意することが大切です。

- ・ 各学校で、総括の考え方や方法等の協議をして、共通理解を図っておく。
- ・ 様々な評価方法の例を参考にしながら、各学校の実態に応じて、各学校で方法等を決定する。

適切な評価の計画の下に得た、児童生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、**単元（題材）末、学期末、学年末等**の節目が考えられます。

「学習評価参考資料」には、次のように、総括の方法が例示されていますので、各学校における、観点別評価の総括について、評価方法を検討する際の、参考にしてください。

【例1】単元（題材）における観点別評価の総括の例

評価結果のA, B, Cの数を基に総括する場合

学習活動	1	2	3	4	5	6	7	8	単元の 評価
知識・技能	A			A	B		B		A or B
思考・判断・表現			B			A		C	B
主体的に学習に 取り組む態度		B		B		A		B	B

「AABB」のように同数の場合など、総括に迷う場合があるので、あらかじめ総括の仕方を決めておくことが必要ですね。



【例2】単元（題材）における観点別評価の総括の例

評価結果のAを3点, Bを2点, Cを1点にするなど、数値に置き換えて総括する場合

学習活動	1	2	3	4	5	6	7	8	総括	単元の 評価
知識・技能	3点			3点	2点		3点	3点	14/15点	A
思考・判断・表現			3点			2点		2点	7/9点	B
主体的に学習に 取り組む態度		2点		2点		3点		1点	8/12点	B

※ 例えば、総括の結果をBとする範囲を $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ とすると、「思考・判断・表現」の平均値は、約 2.3 $[(3 + 2 + 2) \div 3]$ で総括の結果はBとなる。

（「学習評価参考資料」p. 16 - 17 を基に作成）

なお、評価の各節目のうち特定の時点に重きを置いて評価を行う場合など、【例1】、【例2】のような平均値による方法以外にも様々な総括の方法が考えられます。

4 観点別学習状況の評価から評定への総括

観点別学習状況の評価から評定への総括は、各観点の評価結果をA, B, Cの組合せ、又は、A, B, Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を小学校では3段階、中学校では5段階で表します。

中 学 校	5 : 「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断できるもの
	4 : 「十分満足できる」状況と判断されるもの
	3 : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
	2 : 「努力を要する」状況と判断されるもの
	1 : 「一層努力を要する」状況と判断されるもの

【例 1】観点別学習状況の評価を数値化し、合計値で評定を決める方法

観点別評価	合計値	評定（小学校）	評定（中学校）
AAA	9	3	5 又は 4
AAB	8		
ABB AAC	7	2	3
ABC BBB	6		
BBC ACC	5		
BCC	4	1	2 又は 1
CCC	3		

A	B	C
3点	2点	1点

「評定」と「総括」においても、学校全体で共通理解して進めていくことが大切です。



【例 2】観点別学習状況の各観点の評価結果を点数で算出し、評定を割合で算出する方法

観点別の達成度	8割以上	5割から8割	5割以下
小学校	3	2	1
中学校	5 又は 4	3	2 又は 1



評価に関する仕組みや評価結果については、保護者の理解を得ることが大切です。児童生徒や保護者に通知表等や保護者会で、丁寧に説明しましょう。説明をして理解を図ることが学習の改善や保護者からの信頼につながります。

5 学習評価の工夫について（チェックポイント例）

(1) 学習評価の妥当性、信頼性を高める工夫について

- 評価について、学校として組織的かつ計画的に取り組んでいる。
- 評価基準や評価方法について、教師同士で検討するなどして明確にしている。
- 評価に関する実践事例を蓄積した上で共有し、評価結果についての検討を通じて力量向上を図っている。
- 児童生徒や保護者に対し、評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価結果について丁寧に説明したりするなど、評価に関する情報を積極的に提供し、児童生徒や保護者の理解を図っている。

(2) 評価時期の工夫について

- 日々の授業で、児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置いている。
- 各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているか意思的な側面を評価している。
- 学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして、複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価している。

(3) 学年や学校間の円滑な接続を図る工夫の例

- 「キャリア・パスポート」を活用し、児童生徒の学びをつなげられるようにしている。
- 小学校段階においては、幼児期の教育との接続を意識した「スタート・カリキュラム」を一層充実させている。
- 高等学校段階においては、入学者選抜の方針や選抜方法の組合せ、調査書の利用方法、学力検査の内容等について見直しを図っている。



自校の学習評価の工夫について、チェックポイントを活用して振り返ってみましょう。